

本人支援のための具体的支援内容 ホップ

項目	ねらい (ガイドライン項目)	支援内容	ガイドライン 支援内容項目
健康・生活	健康状態の把握と健康管理 (健康・生活 a-(a))	<ul style="list-style-type: none"> ・一年に一度アセスメントを行い、利用者の通院状況や健康状態等の把握を行う。 ・やりとりノートなどで家庭での生活リズム、食欲、排泄の様子などを把握する。 ・利用者の発達の過程や障害の特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行う。 	健康・生活 b-(a)
	生活リズムや生活習慣の形成 (健康・生活 a-(b))	<ul style="list-style-type: none"> ・「食べる」「寝る」「テレビに頼らない」生活リズムを保護者と一緒に整えていく。 ・希望により、恵の実保育園から給食を購入し提供する。子どもの発達状況に応じて、離乳食や補助食（スープ、プルーン等）を取り入れる。 ・偏食しないでなんでも食べられるよう、子どもの様子を確認しながら働きかけていく。 ・自分で食べる意欲を大事にし、手づかみ食べから徐々に道具の使用につなげていく。 ・咀嚼や嚥下、姿勢保持に支援が必要な利用者には、楽しく安全に食事ができるよう配慮する。 	健康・生活 b-(b)
	日常生活の基本動作を身につける (健康・生活 a-(c))	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の支度、着替え、準備・片付けなど、身の回りのことを自分でやろうとする意欲や意識を育てる。子どもの発達状況に応じて生活の配慮をしながら、本人なりに試行錯誤する力を身につけ、自分のことが自分でできる喜びを感じていく。 ・時間（見通し）や空間（場所）などを本人に分かりやすいよう工夫し、自分で考えながらできることを増やしていく。 	健康・生活 b-(c)(d)(e)
運動・感覚	身体を育てる（身体運動の向上と体力維持） (運動・感覚 a-(a))	<ul style="list-style-type: none"> ・近くにある赤塚山公園への散歩や山登り等にてかけ、斜面や階段をたくさん歩き、身体の移動能力の向上や体力維持を目指す。 ・リズムあそび、散歩、アスレチック遊び、戸外遊びなどを通して、しなやかな強い身体と、様々な状況に応じて身体を使いこなせる力を育てる。（危険に対する身のこなし方を身体と感覚で学ぶ） 	運動・感覚 b-(a)(c)
	姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 (運動・感覚 a-(b))	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置や歩行器などの補助的手段を活用してこれらができるよう支援する 	運動・感覚 b-(b)
	感覚への働きかけ及び感覚統合	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚統合遊びとして、ゆさぶり遊び、トランポリン、リズムあそび、アスレチック遊びなどを行う。 	運動・感覚 b-(d)(e)(f)

	(運動・感覚 a-(c))	・マッサージや足湯、じゃれつき遊びなど、スキンシップを通して「心地いい」感覚を育てていく。	
認知・行動	五感を十分に活用して認知機能の発達や概念形成を促す支援 (認知・行動 a-(a))	・水や土、泥遊びを行い、感覚を楽しむとともに、変化する素材に働きかけ夢中になって遊び込む力、試行錯誤したりイメージする力を育てる。感覚が過敏な利用者には、その子が受け入れられる感覚から少しずつ受け入れられる感覚を広げていけるよう支援する。 ・自分自身で経験し、実感を伴って言葉や概念を学んでいく支援を行う。 ・散歩にでかけ、道草を楽しみ、自然の中でいろんなものを発見していく。五感を使って植物や木の実、虫など自然を感じ、仲間と感動を共有していく。 ・川遊び、海遊び、草滑り、山登りなど自然の中での活動を仲間と楽しむ。 ・絵本の読み聞かせを行う。自分の経験と重ね合わせながら、好奇心を刺激し、感性を高めるとともに、想像力や語彙力を高める。	認知・行動 b-(a)(c)(d)
	遊びや生活を通して認知機能を高めていく支援 (認知・行動 a-(a)(b))	・一人一人の発達段階に応じて遊びを展開させ、認知機能の向上を促す支援を行う。 ・身体や感覚を使って思考錯誤し、考える力を育てていく。 ・土や水などの変化する素材を使い、手指を使って思考錯誤する力、ままごとやごっこ遊びを通してイメージする力、イメージを他者と共有していく力を育てていく。 ・集団遊びを行い、ルールを共有しながら、相手の行動を予測し、相手と駆け引きし、仲間と協力したり作戦を立てるなど、頭の中で考える力を育てる。 ・生活の中で楽しみながら、数や量・空間認知の概念に触れていく。	認知・行動 b-(a)(c)(d)
	創る(作る)活動を通して表現する喜びや認知機能の向上、達成感を得る (認知・行動 a-(a)(b))	・粘土や折り紙、子どもの発達に合わせてハサミやのりなどを使い、季節に合わせた制作を行う。 ・一人一人の力に合わせた素材や道具を使って制作活動を行う。素材に働きかけたり、表現することを通して気持ちのやりとりを楽しむ。 ・散歩や遊んだ後には絵を描き、表現する力を育てると共に、認識の発達を促し、喜びを感じる。	認知・行動 b-(a)(c)(d)
	知覚から行動への認知過程の発達 (認知・行動 a-(a))	・「～したい」というよき見通しがある生活の中で、そのためにやるべきことを自分で考え、行動していきけるよう支援する。 ・遊びや活動に必要な準備、片付け等を、仲間と一緒に自分たちで行う生活を目指す。	認知・行動 b-(b)
	認知の偏りへの対応	・遊びを通して、利用者に合わせたスモールステップ	認知・行動

	及び行動障害への予防・対応 (認知・行動 a-(c))	でいろんな感覚を体験し、外界に働きかける意欲と、受け入れられる世界を広げていく。大好きな人、大好きな遊びを増やしていく中で、本人が良き見通しをもって、自分で生活や活動を組み立てていくことができるよう支援する。 ・本人の物事の理解の仕方や発達段階に応じて、情報の理解の手助けをし、また、自分の気持ちをきちんと相手に伝える手助けをしながら、スモールステップで折り合いをつける力を育てていく。	b-(e)(f)
言語・コミュニケーション	コミュニケーションの基礎的能力の向上 (言語・コミュニケーション a-(c))	・本人の気持ちに寄り添い受け止めることを土台にして、相手に「伝えたい」気持ちを育てていく。言葉にならない思いも含め、本人が伝えようとしているサインや行動などを受け止め、その背景にある思いを理解し、気持ちのやりとりを支援する。 ・その子なりの言葉ではないコミュニケーション手段を周りの大人や仲間が理解して気持ちのやりとりができるよう、周囲への働きかけを行う。	言語・コミュニケーション b-(c)(d)
	言語の形成及び受容 言語と表出言語の支援 (言語・コミュニケーション a-(a)(b)(d))	・様々な実体験を通して、言葉の意味や使い方を学んでいく(認知行動の支援内容に同じ)。相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援を行う。一人一人の特性に応じて、視覚支援等を取り入れ、理解のしやすさや意見の伝えやすさにつなげる。	言語・コミュニケーション b-(a)(b)(e) (f)(g)
人間関係・社会性	信頼関係の形成 (人間関係・社会性 a-(a))	・恵の実保育園との交流保育を行い、個々の発達状況に応じた活動に参加をしていく。仲間との遊び、ケンカ、日常生活を通して、仲間への意識を育てていく。 ・仲間と関わり合う中でコミュニケーションの取り方を学んでいく。 ・安心できる大人との信頼関係を築き、信頼関係を基盤として周囲の仲間との関係性を広げていく。 ・仲間と関わり合いながら生活や遊び、活動を行えるよう支援し、仲間がいるからこそその喜びや楽しさを感じ、「仲間と一緒にうれしい」「人が大好き」という気持ちを育てていく。	人間関係・社会性 b-(a)
	遊びや活動を通して 仲間と協力し合う力を育てる (人間関係・社会性 a-(c))	・一人遊びの状態から、大人が仲間をつなげながらの並行遊びや協同遊びになるよう支援し、仲間を意識し社会性の発達へとつなげていく。 ・活動の準備や片付けなど、生活や活動に必要なことを仲間と協力し合いながら、自分たちで行っていきけるよう支援する。 ・どんなに発達がゆっくりであっても、仲間と相談し合いながら、一人一人の意見や思いを大事にし、自分たちの生活や遊びを自分たち決めて実行する機会を	人間関係・社会性 b-(b)(c)(d)

		保障していく。	
いろいろな仲間と関わり合い、いろいろな自分を発揮していく (人間関係・社会性 a-(c))		<ul style="list-style-type: none"> ・恵の実保育園との交流活動を行い、本人の持てる力で活動に参加をしていく。仲間との活動を通して、仲間への意識や憧れを育て、仲間と関わり合う中でコミュニケーションの取り方を学んでいく。 ・恵の実保育園との交流保育の他、ホップくん単独活動も取り入れ、ホップくんの仲間の中で、縦割りになるような活動を大事にする。 	人間関係・社会性 b-(a)(f)
自己の理解と自己コントロールのための支援 (人間関係・社会性 a-(b))		<ul style="list-style-type: none"> ・ルールのある集団遊びを通して、社会性や自治を学ぶ。 ・労働を通して、仲間と協力し合うこと、誰かのために役に立つ喜びを感じる。 ・思い通りにいかない出来事や、仲間との意見のぶつかり合いやケンカなどを通して、職員や仲間と考え合い、自分自身を振り返ることを大事にする。ひとつひとつの出来事を積み上げながら、物事を多面的に考えようとする力や価値観を学んでいく。 	人間関係・社会性 b-(e)
体験活動の保障 (人間関係・社会性 a-(a)(b)(c))		<ul style="list-style-type: none"> ・その年齢にふさわしい社会的な体験をし、また社会的マナーを学んでいけるよう、体験の機会を保障する。必要に応じて、環境の配慮や道具の工夫などを検討していく。 ・仲間との施設内合宿を行い、生活の自立の力につなげていく。 ・仲間と施設外活動を企てることを通して、物事の仕組みを知り、計画する面白さや難しさを感じ、仲間とやり遂げる達成感を感じる。 	人間関係・社会性 b-(a)(d)(e)(f)